

POTTプログラム研修 in 紀南病院



参加者意見

- 患者様の食事量が少ないのは患者要因だと思っていたが、安楽なポジショニングをする事で食事量の摂取が期待できると感じた
- 食事介助が自分主体になっている事に気づいた。今後は患者主体になるよう努力したい



参加者意見

- 患者体験をして自分のポジショニングが患者に苦痛を与えている事に気づいた
- 患者体験をしてポジショニングの重要性に気づいた
- スプーンの運び方が難しく、今後はしっかり考えて行いたい
- らくらくパン美味しかった

日時: 2017年2月25日 13:30～16:30

参加者: 15名(当院看護師)+7名(当院ST・院外セラピスト・摂食嚥下障害CN)

講師: 迫田綾子先生

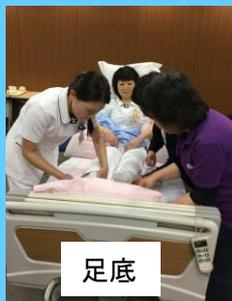
サポーター: 竹市美加先生・原田裕子先生

POTTプログラムに参加する！と決めてから、参加者の皆さんに食事ケアがどう映るのか心配でした。研修風景をみて、そんな心配は吹っ飛んでいきました。食事時のポジショニング、食事介助環境、スプーン操作、食後のポジショニングを患者体験・実技を行う事で、参加者個々に色々な気づきがありました。迫田先生・竹市先生・原田先生が蒔いた種を紀南STYLEの花が咲かせるよう、今後も活動が続けていきます。遠い遠い紀南まで来て頂いた先生方、本当にありがとうございました。紀南病院 摂食嚥下障害看護CN 宮田栄里子 2017/3/6 記

研修風景



背抜き



足底



スプーン操作



食事環境



不良姿勢



たわみ補正



白浜にもPOTT到来